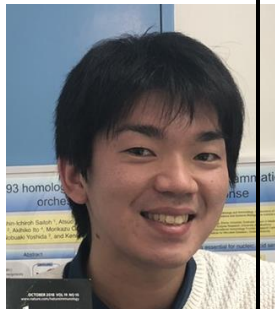


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2019 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	佐藤亮太	会員番号	0033422	
申請者の所属・職名	東京大学医科学研究所			
出席会議名	Keystone Symposia: Immunometabolism, Metaflammation and Metabolic Disorders (D6)			
発表論文タイトル	Combating herpesvirus encephalitis by potentiating a TLR3-mTORC2 axis			

実施結果:

この度は、2019 年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択頂きありがとうございました。私は 2019 年 4 月 14 日から 18 日まで、カナダのバンクーバーにて開催された **Keystone Symposia: Immunometabolism, Metaflammation and Metabolic Disorders (D6)** に参加させていただきました。代謝免疫学という分野を細胞レベルからマウスやヒトレベルまで理解しようという学会のコンセプト通り、各国の著名な免疫、代謝の研究者だけでなく、製薬企業、バイオベンチャー、臨床医まで総勢 200 名が参加していました。私は、自然免疫について主に研究を進めてきたため、代謝学については素人でしたが、演者の先生の発表は私にも理解しやすい理路整然とした内容であったことから、非常に勉強になる学会でした。

私は” **Combating herpesvirus encephalitis by potentiating a TLR3-mTORC2 axis**” というタイトルでポスター発表を行いました。ポスター発表会場とバンケット会場が一緒の会場だったために、食べ物やビールを片手にディスカッションすることができ、非常にリラックスした雰囲気でした。私の発表内容は、代謝センサーが TLR の下流で働くという他の演題とは異なるアプローチをしていたため、多くの研究者の方々に興味を持っていただきました。この分野の専門家たちから重要な指摘、アドバイスをいただいたことで、自らの視野も広がり、非常に有意義な学会となりました。参加者には若い学生や研究者が多く、彼らが活発にディスカッションをしており、私が発表した日は、若手の研究者とともに夜 9 時まで会場に残っており、熱い議論を交わすことができました。

本学会では、代謝分野の学会ということもあり、多くの研究者が糖尿病やメタボリックシンドロームなどの生活習慣病を対象に研究を行っていました。病院と隣接している研究所は大量に患者のサンプルが手に入りやすいようで、多くの研究者が、患者の代謝物やゲノム情報から原因遺伝子や分子を網羅的に見つけ出し、その発症メカニズムを解明しマウスモデルで病気を再現し実験を行っていました。ターゲットとした病気のヒトサンプルが容易に手に入る環境に驚くとともに、スムーズでスマートなアプローチだと感嘆しました。また、最終的には製薬企業などと共同研究することで、抗体や化合物による治療薬の開発を進めている研究者も多く見受けられ、海外では産学官の連携がしっかりしており、日本も見習うべきだと痛感しました。今回の経験を通じて多くのことを学ぶことができたので、今後もこのような海外の学会にできるだけ参加できるように精進したいと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えていただいた岸本忠三先生、選考委員の先生方、またご推薦いただいた三宅健介先生に厚く御礼申し上げます。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。